

## 平成 23 年度 第 1 回被服学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 23 年 9 月 17 日(土) 14：00～16：00
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：高部啓子委員、伊佐治セツ子委員、軽部幸恵委員、田中早苗委員、  
角田由美子委員、  
(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員
- IV. 議題：学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案のまとめ

### 議事概要

#### 1. 検討内容の意義について（事務局長）

私情協がなぜこれをやろうとしているのか、十分わかっていない人が多い。（参考 1）日本は危機的な状態を迎えている。日本経済新聞の社説には、国民の力が足りないのは、大学教育が十分機能していないと書かれている。学生が未来を切り開くことのできる力を大学が担っているのか、責任を持った授業をしていないのではないかと社会から見られている。日本の進学率は 48%であり、韓国 70%やイギリス 57%に比べて高くはない。これらの国では、質保証に関して努力しているが日本ではどうか。大学の教員には、組織的に前向きに新しい大学作りに関与することを社会が期待している。

私情協では、資料の事業報告Ⅱに記載されているように、中高では「探求的な学習」「協同的な学習」、「体験活動の重視」の新しい学習が必要とされ、高校では平成 22 年度からこれらの取り組みを行っている。5 年先には新しい学習をしている学生が大学に入学してくるので、今から準備が必要である。理想的な授業を考えてほしい。

文部科学省では、キャリア教育、職業教育の答申によると今の大学(4 年生、短期大学)には、職業大学は期待していない。今の大学と新しい学校種の差別化については、まだ十分進んでいないと言っているが、文科省の答申では、新しい大学は、2 年プラス 1 年や 2 年プラス 2 年の教育になる。そして最新の技術を企業と職能団体が大学の授業をバックアップするようになる。このようになると今までの授業のあり方では、新しい大学に学生が流れてしまうのではないのか。今の大学や短大はどうあるべきかを考える必要がある。

大学は、教養と専門が売りであったが、実際には専門教育が主であり、リベラルアーツの授業をしていない。リベラルアーツのねらいは、自己の学びを気づかせることである。これには教養と専門の融合した学習が必要である。これが大学の課題の一つ。これは、新しい大学との差別化に必要である。

事業報告書の中で 2 番目に記載されている項目が重要である。

- 1) 学生に達成感、主体性を持たせることが重要である。学生提案型の授業が必要である。失敗させてもよい。しかし基礎、基本は必要であるが、専門との関係が行われていない。

理工系ですら、卒論は先生の口述筆記である。これらの学生は社会に出ても役に立たない。基礎と関連領域の教員で連携をとることが必要である。

2) 勉強しない学生には、ファシリテーターの制度を作り、上級学生に指導してもらうことは、学生と院生の双方に有効である。ドクターは英語もできなければ人間力がない。専門で培った学びが応用できないといわれていて問題である。

3) 到達度に関しては、日本は甘い。卒論に関して理工系では、教員二人が口頭試問を行っている。

これらから5年先を考えると思い切った改革が必要である。

現在の大学では授業科目が多すぎる。科目を減らす必要がある。学生に予習、復習をする時間がない。ハーバード大学などでは年間3から5科目である。一つの科目に教員がチームになって授業を統合して作っていく仕組みを作る必要がある。学科目制だけでなく、5年先の授業を提案してほしい。本日の議論では、高望みしすぎた議論を望んでいる。

## 2. アンケートについて（事務局長）

今、アンケートをとるためには、アバウトな内容でよい。筋が通っていればよい。詳しい内容は、来年本にするときに加えることができる。アンケートには授業のねらいと授業計画が必要である、

1) 授業のねらいは2行から3行、大事なことは、提案する授業の新規性が浮かび上がることが必要である。

2) 授業計画は、シラバスではなく、授業の枠組みをどう考えるか。4年間で学びをどう実現するのか？具体的ではなく、枠組みだけを中心に記載してほしい。4年間の到達度をどう評価するのか？たとえば卒業制作を広い視野で外部評価や外部との連携のようなものを授業に取り入れるなどである。

授業のシナリオは一例である。4年間を通じたシナリオ設計が必要である。そのときにICTを使うことになる。

内容と方法は具体的なものの一例である。アンケートはねらいと授業計画が重要である。あとは一例と考える。

## 3. 授業モデル案の検討

到達目標を実現するためにどのような授業を作ったらよいのか？科目ではなく、枠組みを作してほしい。

被服学では、科目としての授業モデル案を考えていたので、事務局の方向性と異なっている。被服学教育のあり方を再度提案することが必要である。

衣服を作ることを前提に、科目がばらばらではなく統合したものが必要なので、それを提案する。教員同士の連携、チームティーチングの提案が必要である。

授業シナリオはこのままでよい。ねらいと授業計画を再度考える必要がある。（事務局）

到達目標の3は統合型、4は社会とのコネクションである。これらを踏まえて二つのグループから再度提案する。担当委員に再度原案を出していただき、次回の委員会までに被服学教育研究委員会のメーリングリストで意見を求めることになった。

以上、授業のねらいおよび授業計画について検討を行ったが、事務局が求めていることと、被服学教育研究委員会が考えていることに温度差があったため、再度委員会を開催して検討することになった。アンケートを取る都合上、急いでまとめる必要があるため

次回の委員会は、平成23年10月1日(土)14:00~行うことになった。

以上